

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	社会的養護 I				
担当者氏名	昇 慶一、阪本 博寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・春期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 専門基礎-2 豊かな人間性の醸成 ◎ 専門基礎-5 指導・保育の専門性				

《授業の概要》

児童虐待が大きな社会問題となっており、養育困難な家庭に代わり社会的養護の場の重要性が言われている。すべての児童が健全に育成されるために、特に家庭で生活できない児童への取り組みとしての社会的養護の基礎概念と理論を学習する。保育士として専門性が求められる社会的養護の実践を考え、さらには現代社会の児童福祉の問題全般に対応できる技術・実践力が身につくことを目指す。

《授業の到達目標》

現在社会では家庭で子どもの養育が十分にできない現状である。社会的養護の機能が社会全体で必要とされていることを理解する。

テーマ 『子どもの権利擁護への取り組み』

《テキスト》

喜多一憲監修・堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ブックス 社会的養護 I』みらい

《参考図書》

山縣文治・柏女霊峰編『社会福祉用語辞典』ミネルヴァ書房

《授業時間外学習》

子ども問題の新聞の記事に関心をもっておく。興味のある記事は切り抜き集めておく。資料を配布するので整理する。

《成績評価の方法》

平常点（提出物・受講態度）50%

期末試験 50%

で総合的に評価する。

《備考（教員経験の有無）》

講義中に指示する提出物は、提出期限を厳守すること

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	社会的養護の意義	現代社会の社会的養護の意義、社会的養護のニーズの変遷と対応
2	社会的養護の基本理念と原理	社会的養護の基本理念と原理、児童の権利擁護と自立支援
3	社会的養護の現状（子ども・家庭・地域）	社会的養護を利用する子どもの現状と養護問題の発生の背景、社会的養護の対象となる子ども・家庭・地域
4	社会的養護の歴史（1）	わが国の社会的養護の歩み（古代社会から第2次世界大戦までの児童保護）、先駆者たちの実践
5	社会的養護の歴史（2）	第2次世界大戦後の展開（戦後の孤児・浮浪児の保護、児童福祉法の制定、ホスピタリズム論争、家庭的処遇論と積極的養護論、子どもの権利の現状と懸念）
6	イギリス・アメリカの児童福祉の歴史	イギリス・アメリカの児童福祉の歴史、基本的人権・子どもの権利擁護の歴史
7	社会的養護の制度と実施体系（1）	社会的養護の制度と法体系（親権問題）、措置制度と利用契約制度
8	社会的養護の制度と実施体系（2）	社会的養護の仕組みと実施体制、関係機関の連携
9	社会的養護の制度と実施体系（3）	家庭的養護と施設養護、施設養護における『当たり前の生活とは』、施設の小規模化・地域分散化
10	社会的養護の制度と実施体系（4）	社会的養護の専門職・実施者・資格、ライフストーリーワークと人権
11	施設養護の実際（1）	施設養護の基本原則、施設養護の特質、運営指針に基づく支援、施設養護とソーシャルワーク
12	施設養護の実際（2）	施設養護のインケアの実際（個別化に基づく支援、治療的支援、日常生活の支援、家族への支援、地域の子育て支援、自己実現、自立支援）
13	施設養護の実際（3）	施設養護の展開（アドミッションケア・インケア・リービングケア・アフターケア）
14	社会的養護の現状と課題	児童福祉施設の運営管理（施設運営、自己評価、第三者評価、苦情解決制度の理解）
15	社会的養護の現状と課題まとめ	被措置児童等の虐待防止、倫理の確立、施設内外のリスクマネジメント、社会的養護に関する政策動向（新しい社会的養育ビジョン）